



2025年3月期 第1四半期決算短信(IFRS)(連結)

2024年8月5日

上場会社名 ウェルネオシュガー株式会社
コード番号 2117 URL <https://www.wellneo-sugar.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山本 貢司

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務部担当 (氏名) 大場 健司

TEL 03 - 3668 - 1293

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第1四半期の連結業績(2024年4月1日～2024年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に 帰属する四半期利益		四半期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	24,400	8.4	2,313	100.7	2,387	8.7	1,622	13.5	1,622	13.5	1,926	14.2
2024年3月期第1四半期	22,517	78.9	1,152	89.8	2,614	288.8	1,876	338.1	1,876	338.1	2,244	314.1

	基本的1株当たり四半期利益		希薄化後1株当たり四半期利益	
	円	銭	円	銭
2025年3月期第1四半期	49.51			
2024年3月期第1四半期	57.26			

(2) 連結財政状態

	資産合計		資本合計		親会社の所有者に帰属する持分	親会社所有者帰属持分比率
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	92,640		70,978		70,978	76.6
2024年3月期	95,918		71,107		71,107	74.1

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2024年3月期	円	円	円	円	円
2025年3月期		46.00		56.00	102.00
2025年3月期(予想)		46.00		46.00	92.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的 1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円
第2四半期(累計)	48,000	6.7	3,800	41.9	3,800	9.6	2,700	12.6	2,700	12.6	82.41
通期	95,000	3.0	7,000	20.6	7,100	6.9	5,000	9.5	5,000	9.5	152.54

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

IFRSにより要求される会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期1Q	35,053,483 株	2024年3月期	35,053,483 株
期末自己株式数	2025年3月期1Q	2,288,588 株	2024年3月期	2,288,574 株
期中平均株式数(四半期累計)	2025年3月期1Q	32,764,902 株	2024年3月期1Q	32,760,953 株

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 有(任意)

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況 (4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 当四半期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	5
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	7
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	9
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(作成の基礎)	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(セグメント情報)	12

[独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書]

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結会計期間より、当社グループにおける事業管理区分の見直しに伴い、報告セグメントを従来の「砂糖その他食品事業」、「健康産業事業」、「倉庫事業」から、「Sugarセグメント」、「Food&Wellnessセグメント」に変更しています。このため、前年同期数値につきましては、変更後のセグメント区分に組み替えて比較分析を行っています。

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済につきましては、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要に支えられ、景気は緩やかな回復基調を維持しました。一方で、円安に伴う消費者物価上昇の影響や不安定な国際情勢などを受け、依然として先行きは不透明な状況にあります。

当第1四半期連結累計期間の業績は、コスト上昇に対する売価への反映を進めたこと等により、売上収益は24,400百万円（前年同期比8.4%増）、営業利益は2,313百万円（同100.7%増）となりました。前年同期において一過性の受取配当金を計上していた反動で金融収益が減少し、税引前四半期利益は2,387百万円（同8.7%減）、親会社の所有者に帰属する四半期利益は1,622百万円（同13.5%減）となりました。

セグメントの概況は以下のとおりです。なお、各セグメント利益は全社費用等317百万円を含んでいません。

[Sugarセグメント]

海外原糖市況につきましては、1ポンド当たり22.65セントで始まり、主要生産国ブラジルにおいて良好な生産状況が確認されたことや、世界の砂糖需給見通しにおいて供給過剰が意識されたことを受けて、5月中旬に今期最安値となる17.95セントまで値を下げました。安値圏では需要国の一定の買いがみられましたが、北半球では雨期に纏まった降雨が予想され、翌期のタイ、インドの生産量が良好になるとの見方から上値の重い値動きが続きました。しかし、好天が続くブラジルで干ばつ懸念が広がったことで生産終盤の不透明感が強まると、20セント台前半に値を戻して当第1四半期を終了しました。

海外原糖市況（ニューヨーク市場粗糖先物相場（当限））

	日付	セント/ポンド	円/kg	為替（円/ドル）
始 値	2024年4月1日	22.65	76.11	152.43
高 値	2024年4月1日	22.91	76.99	152.43
安 値	2024年5月16日	17.95	61.31	154.94
終 値	2024年6月28日	20.31	72.57	162.07

（注）1ポンドは約0.4536kgとして換算し、為替は当日の三菱UFJ銀行直物為替公表TTSによっています。

国内精糖市況（日本経済新聞掲載、東京）につきましては、前期末から変わらず上白糖1kg当たり249円～251円で当第1四半期を終了しました。

このような状況のもと、業務用製品の販売量は、人流の増加等により、製菓、製パン、冷菓向け等で回復がみられたことで前年同期を上回りました。家庭用製品の販売量は、当社グループ独自製品の「きび砂糖」の出荷は好調に推移しましたが、青梅の歴史的不作により氷砂糖の販売量が減少したこと、および家庭内調理機会の減少により前年同期を下回りました。利益面においては、コスト上昇に対する売価への反映を進めたこと、および有利な条件での原料調達を実行できたことにより、大幅な増益となりました。

以上の結果、Sugarセグメント合計の売上収益は20,999百万円（前年同期比9.5%増）、セグメント利益は2,447百万円（同98.0%増）となりました。

[Food&Wellnessセグメント]

Food&Wellnessセグメントにおきましては、主にフードサイエンス事業とフィットネス事業により、幅広い場面で活用される多種多様な機能性素材・サービスを提供しています。

フードサイエンス事業につきましては、当社グループ独自製品の「きびオリゴ」が持つ腸内環境改善効果への関心が高まっており、採用店舗拡大に向けて営業活動に取り組んだ結果、好調な出荷を継続しました。ツキオカフィルム製薬㈱では、フィルム事業における開発案件の遅れ等により減収減益となりました。

フィットネス事業につきましては、新たなターゲット層に向けた積極的な広告宣伝活動に取り組んだ結果、会員数は緩やかに回復し、子供向けスクール事業の受入体制強化によってスクール会員数も増加しました。不採算店舗の退店により減収となりましたが、引き続き事業の効率化を図った結果、利益面では増益となりました。

倉庫事業につきましては、冷凍倉庫において畜産品の取扱量が減少したことにより、減収減益となりました。

以上の結果、Food&Wellnessセグメント合計の売上収益は3,401百万円（前年同期比1.8%増）、セグメント利益は183百万円（同13.2%減）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は34,813百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,113百万円減少しました。これは主に棚卸資産が1,355百万円増加した一方で、現金及び現金同等物が4,481百万円減少したことによるものです。非流動資産は57,827百万円となり、前連結会計年度末に比べ163百万円減少しました。これは主に有形固定資産が150百万円減少したことによるものです。

この結果、資産合計は92,640百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,277百万円減少しました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は17,827百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,020百万円減少しました。これは主に営業債務及びその他の債務が2,257百万円、未払法人所得税等が983百万円それぞれ減少したことによるものです。非流動負債は3,834百万円となり、前連結会計年度末に比べ127百万円減少しました。これは主にリース負債が151百万円減少したことによるものです。

この結果、負債合計は21,662百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,148百万円減少しました。

(資本)

当第1四半期連結会計期間末における資本合計は70,978百万円となり、前連結会計年度末に比べ129百万円減少しました。これは主に親会社の所有者に帰属する四半期利益1,622百万円および剰余金の配当による減少1,834百万円によるものです。

この結果、親会社所有者帰属持分比率は76.6%（前連結会計年度末比2.5ポイント増）となりました。

(3) 当四半期のキャッシュ・フローの概況

当第1四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は、前連結会計年度末より4,481百万円減少し、8,028百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,842百万円の支出（前年同期は252百万円の支出）となりました。

主なものは、税引前四半期利益2,387百万円、減価償却費及び償却費590百万円、法人所得税の支払額△1,704百万円、ならびに棚卸資産の増加、営業債権及びその他の債権の増加、営業債務及びその他の債務の減少による△3,442百万円です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、627百万円の支出（前年同期は190百万円の支出）となりました。

主なものは、有形固定資産及び無形資産の取得による支出△618百万円です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、2,012百万円の支出（前年同期は1,408百万円の支出）となりました。

主なものは、リース負債の返済による支出△218百万円および配当金の支払額△1,793百万円です。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期以降のわが国の経済は、消費の持ち直しが持続し、緩やかな景気回復が続く一方で、国際情勢や物価上昇による消費購買意欲の低下が懸念されるなど、引き続き予断を許さない状況が続く見通しです。

このような状況の中、当社グループは中期経営計画「WELLNEO Vision 2027」の1年目として、当社を取り巻く様々なステークホルダーの“Well-being”の実現に向けた取り組みを進めております。2023年5月26日に公表いたしました、当社を存続会社とし、子会社である日新製糖㈱および伊藤忠製糖㈱を消滅会社とする吸収合併につきましても、2024年5月24日開催の当社取締役会の決議に基づき合併契約を締結し、2024年6月26日開催の当社株主総会での承認を受け、2024年10月1日に実施する予定であり、一体的な効率経営のもと、以下各セグメントにおける成長施策を着実に進めてまいります。

Sugarセグメントにおきましては、主要生産国の天候懸念や地政学的リスク等により先行き不透明であり、エネルギーコストの高止まりや円安の影響を受け、業界環境が依然として厳しい状況ですが、当社は、生活必需品である砂糖の安定的な提供により社会的責任を果たしていくなかで、有利な条件での原料調達やコスト上昇に対する売価への反映を進め、採算を重視した経営に努めるとともに、経営統合のシナジー効果を早期に発揮することで、業績の向上を目指してまいります。

Food&Wellnessセグメントにおきましては、健康増進による人々の生活の質の向上に貢献するべく、多種多様な機能性素材・サービスを提供してまいります。

フードサイエンス事業では、「きびオリゴ」をはじめとした腸内環境の改善に資する機能性甘味料素材の販売拡大を目指すほか、オーラルケア分野での効果が期待される当社グループ独自の「サイクロデキストラン」の増産に向けた設備投資、プレバイオティクス素材を活用した産学連携による技術開発等を進め、腸内・口腔フローラ環境を整えるフローラデザイン素材を軸とした様々な領域への事業展開の基盤づくりを引き続き推し進めてまいります。また、ツルヤ化成工業㈱にて研究開発を進めている食品添加物や、ツキオカフィルム製薬㈱の「可食フィルム」の事業展開や同社との連携による商品開発力の強化など、グループ会社の資産や知見も最大限活用してまいります。

フィットネス事業では、会員数は徐々に回復しておりますが、競合サービスの台頭など多様化が進み、経営環境は引き続き厳しい状況にあります。集客促進のための広告も実施し、総合型店舗における子ども向けスクール事業の強化と採算を重視した経営に努め、健康・からだづくりの場の提供を行い、早期の業績回復を目指してまいります。

以上の結果、2024年5月14日の「2024年3月期 決算短信」で公表しました第2四半期連結累計期間および通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、当社は2025年10月1日を目標に、当社を存続会社として、当社の連結子会社である第一糖業㈱を吸収合併（以下「本合併」といいます。）する基本方針を2024年5月24日開催の取締役会において決議いたしました。本合併に向けた必要な手続きの進捗に応じて、公表すべき事項が生じた場合には速やかに公表いたします。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	12,509	8,028
営業債権及びその他の債権	8,237	8,371
その他の金融資産	71	87
棚卸資産	16,375	17,731
その他の流動資産	733	594
流動資産合計	37,927	34,813
非流動資産		
有形固定資産	18,115	17,964
使用権資産	2,120	1,976
のれん	14,280	14,280
無形資産	242	226
持分法で会計処理されている投資	14,944	14,983
その他の金融資産	6,792	6,902
退職給付に係る資産	—	1
繰延税金資産	129	126
営業債権及びその他の債権	15	16
その他の非流動資産	1,350	1,347
非流動資産合計	57,990	57,827
資産合計	95,918	92,640

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
借入金	8,000	8,000
営業債務及びその他の債務	6,898	4,640
リース負債	880	829
その他の金融負債	77	220
未払法人所得税等	1,781	797
引当金	218	199
その他の流動負債	2,991	3,139
流動負債合計	20,847	17,827
非流動負債		
営業債務及びその他の債務	18	21
リース負債	1,643	1,491
その他の金融負債	98	97
退職給付に係る負債	394	376
引当金	430	431
繰延税金負債	1,317	1,357
その他の非流動負債	58	58
非流動負債合計	3,962	3,834
負債合計	24,810	21,662
資本		
資本金	7,000	7,000
資本剰余金	34,690	34,692
自己株式	△3,528	△3,528
その他の資本の構成要素	1,932	2,013
利益剰余金	31,012	30,800
親会社の所有者に帰属する持分合計	71,107	70,978
資本合計	71,107	70,978
負債及び資本合計	95,918	92,640

(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書
(要約四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上収益	22,517	24,400
売上原価	18,817	19,382
売上総利益	3,700	5,018
販売費及び一般管理費	2,552	2,736
その他の収益	21	35
その他の費用	16	4
営業利益	1,152	2,313
金融収益	1,355	57
金融費用	26	23
持分法による投資利益	133	40
税引前四半期利益	2,614	2,387
法人所得税費用	738	765
四半期利益	1,876	1,622
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	1,876	1,622
非支配持分	—	—
四半期利益	1,876	1,622
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	57.26	49.51

(要約四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期利益	1,876	1,622
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値 で測定する金融資産	141	70
純損益に振り替えられることのない 項目合計	141	70
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
キャッシュ・フロー・ヘッジ	227	234
純損益に振り替えられる可能性のある 項目合計	227	234
税引後その他の包括利益	368	304
四半期包括利益	2,244	1,926
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	2,244	1,926
非支配持分	—	—
四半期包括利益	2,244	1,926

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分				
	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	
				キャッシュ・フロー・ヘッジ	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産
2023年4月1日時点の残高	7,000	34,687	△3,534	△12	1,559
四半期利益	—	—	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	227	141
四半期包括利益合計	—	—	—	227	141
自己株式の取得	—	—	—	—	—
配当金	—	—	—	—	—
株式報酬取引	—	2	—	—	—
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	—	—	—	—
非金融資産への振替	—	—	—	△57	—
所有者との取引額合計	—	2	—	△57	—
2023年6月30日時点の残高	7,000	34,690	△3,534	157	1,700

	親会社の所有者に帰属する持分				
	その他の資本の構成要素		利益剰余金	合計	合計
	確定給付制度の再測定	合計			
2023年4月1日時点の残高	—	1,546	28,563	68,264	68,264
四半期利益	—	—	1,876	1,876	1,876
その他の包括利益	—	368	—	368	368
四半期包括利益合計	—	368	1,876	2,244	2,244
自己株式の取得	—	—	—	—	—
配当金	—	—	△1,212	△1,212	△1,212
株式報酬取引	—	—	—	2	2
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	—	—	—	—
非金融資産への振替	—	△57	—	△57	△57
所有者との取引額合計	—	△57	△1,212	△1,266	△1,266
2023年6月30日時点の残高	—	1,858	29,227	69,242	69,242

当第1四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年6月30日）

(単位：百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分				
	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	
				キャッシュ・フロー・ヘッジ	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産
2024年4月1日時点の残高	7,000	34,690	△3,528	155	1,776
四半期利益	—	—	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	234	70
四半期包括利益合計	—	—	—	234	70
自己株式の取得	—	—	△0	—	—
配当金	—	—	—	—	—
株式報酬取引	—	2	—	—	—
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	—	—	—	△0
非金融資産への振替	—	—	—	△223	—
所有者との取引額合計	—	2	△0	△223	△0
2024年6月30日時点の残高	7,000	34,692	△3,528	166	1,846

	親会社の所有者に帰属する持分				
	その他の資本の構成要素		利益剰余金	合計	合計
	確定給付制度の再測定	合計			
2024年4月1日時点の残高	—	1,932	31,012	71,107	71,107
四半期利益	—	—	1,622	1,622	1,622
その他の包括利益	—	304	—	304	304
四半期包括利益合計	—	304	1,622	1,926	1,926
自己株式の取得	—	—	—	△0	△0
配当金	—	—	△1,834	△1,834	△1,834
株式報酬取引	—	—	—	2	2
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	△0	0	—	—
非金融資産への振替	—	△223	—	△223	△223
所有者との取引額合計	—	△223	△1,834	△2,056	△2,056
2024年6月30日時点の残高	—	2,013	30,800	70,978	70,978

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	2,614	2,387
減価償却費及び償却費	607	590
金融収益	△1,355	△57
金融費用	26	23
持分法による投資損益 (△は益)	△133	△40
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,931	△1,353
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)	△116	△142
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)	△608	△1,946
その他	△51	373
小計	△947	△164
利息及び配当金の受取額	1,347	49
利息の支払額	△22	△21
法人所得税の支払額	△630	△1,704
営業活動によるキャッシュ・フロー	△252	△1,842
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額 (△は増加)	1,000	—
有形固定資産及び無形資産の取得による支出	△673	△618
有形固定資産の除却による支出	△2	△3
有形固定資産の売却による収入	—	5
投資の取得による支出	△5	△5
持分法で会計処理されている投資の取得による支出	△522	—
投資の売却、償還による収入	—	0
その他	11	△5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△190	△627
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース負債の返済による支出	△224	△218
配当金の支払額	△1,183	△1,793
その他	—	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,408	△2,012
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,852	△4,481
現金及び現金同等物の期首残高	11,263	12,509
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,411	8,028

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(作成の基礎)

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第5条第2項（ただし、同基準第5条第5項に定める記載の省略を適用）に準拠して作成しており、国際会計基準第34号「期中財務報告」で求められる開示項目の一部を省略しています。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの事業セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社グループはサービス内容・経済的特徴を考慮したうえで事業セグメントを集約し、「Sugarセグメント」、「Food&Wellnessセグメント」を報告セグメントとしています。

「Sugarセグメント」においては、精製糖事業として主に砂糖の製造・販売を行っています。また、「Food&Wellnessセグメント」においては、主にフードサイエンス事業とフィットネス事業があり、フードサイエンス事業としては主にその他甘味料や機能性素材の製造・販売を行っており、フィットネス事業としてはフィットネスクラブの運営を行っています。

(2) 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、当社グループにおける事業管理区分の見直しに伴い、報告セグメントを従来の「砂糖その他食品事業」、「健康産業事業」、「倉庫事業」から、「Sugarセグメント」、「Food&Wellnessセグメント」に変更しています。

このため、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメント区分に基づき作成したものを記載しています。

(3) 報告セグメントに関する情報

当社グループの報告セグメントによる収益および業績は以下のとおりです。

セグメント間の内部収益および振替高は市場価格を勘案して決定しています。

前第1四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）

	報告セグメント			調整額 (注) 2	連結
	Sugar	Food& Wellness	計		
	百万円	百万円	百万円		
売上収益					
外部収益	19,175	3,341	22,517	—	22,517
セグメント間収益	2	28	31	△31	—
合計	19,178	3,370	22,548	△31	22,517
セグメント利益 又は損失(△) (注) 1	1,236	211	1,448	△295	1,152
金融収益	—	—	—	—	1,355
金融費用	—	—	—	—	26
持分法による投資利益	—	—	—	—	133
税引前四半期利益	—	—	—	—	2,614

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)は、要約四半期連結損益計算書の営業利益と一致しています。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用等です。

当第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

	報告セグメント			調整額 (注) 2	連結
	Sugar	Food& Wellness	計		
	百万円	百万円	百万円		
売上収益					
外部収益	20,999	3,401	24,400	—	24,400
セグメント間収益	0	28	28	△28	—
合計	21,000	3,429	24,429	△28	24,400
セグメント利益					
又は損失(△) (注) 1	2,447	183	2,631	△317	2,313
金融収益	—	—	—	—	57
金融費用	—	—	—	—	23
持分法による投資利益	—	—	—	—	40
税引前四半期利益	—	—	—	—	2,387

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)は、要約四半期連結損益計算書の営業利益と一致しています。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用等です。

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2024年8月5日

ウエルネオシュガー株式会社

取締役会 御中

東 陽 監 査 法 人

東京事務所

指 定 社 員 公認会計士 井澤 浩昭
業 務 執 行 社 員指 定 社 員 公認会計士 大島 充史
業 務 執 行 社 員指 定 社 員 公認会計士 重松 あき子
業 務 執 行 社 員

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられているウエルネオシュガー株式会社の2024年4月1日から2025年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2024年4月1日から2024年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2024年4月1日から2024年6月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第5条第2項（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第5条第5項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

要約四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第5条第2項（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第5条第5項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第5条第2項（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第5条第5項に定める記載の省略が適用されている。）に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

要約四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第5条第2項（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第5条第5項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第5条第2項（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第5条第5項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・要約四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信提出会社）が別途保管しています。
2. XBR Lデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。